

◎放課後児童対策

放課後における、子どもたちの活動拠点として、学校の空き教室を活用した『放課後子ども教室』を、個別小学校に開設します。

この事業は、地域の方がたの参画を得て、交流活動などの取り組みを実施することから、子どもたちが地域社会の中で、心豊かで健やかに過ごす環境づくりに大きく寄与するものと考えています。

◎文化・スポーツの振興

登別市文化・スポーツ振興財団をはじめ、各関係団体と連携し、市民の文化活動への参加促進や優れた芸術文化の鑑賞機会の提供、文化財の保護と活用など、文化事業の推進を図るとともに、スポーツ教室やスポーツフェスティバルの開催、指導者の育成、レクリエーション活動の充実に努めます。

また、本年7月には、登別温泉開湯150年記念事業の一環として、株式会社かんぽ生命保険とNHK、全国ラジオ体操連盟とが共催する『ラジオ体操会・みんなの体操会』が当市で開催されることとなりましたので、市民の健康や体力づくりへの関心が高まるよう協力します。

◎市立図書館

生涯学習の情報拠点として、図書資料などの整備充実を図るとともに、市民団体や図書館ボランティアと連携し、図書館活動の充実に努めます。

読み聞かせの研修会



▲市立図書館主催の読み聞かせの研修会

また、これまで試行で取り組んできた、毎週木曜日の開館時間延長を本格実施するとともに、1階トイレの洋式化を図り、利用者への利便性の向上に努めます。

◎教育施設の整備

登別小学校の暖房設備の更新、登別中学校の水洗化工事を実施するとともに、小中学校の大便秘の洋式化について、今年度より、年次計画を持って取り組みます。

また、市民会館のボイラー取り替え工事を実施します。

●おわりに

教育委員会としては、いまだ混沌としていた教育情勢ではありますが、しっかりと未来を展望した基盤づくりが進められるよう、市長部局との連携を深め、諸施策を推進します。

市民の皆さん、市議会議員の皆さんのご理解とご協力をお願いします。

平成20年度予算

●全会計総額

平成20年度の各会計（一般会計、8特別会計、水道事業会計）の予算総額は、349億8千630万円。平成19年度の当初予算と比較すると、14.1%の減となりました（9ページ表1参照）。平成19年度当初予算と比較すると、一般会計が5.3%の減（平成19.20年度における特殊要因である受託事業費や地域総合整備資金貸付金、土地開発公社貸付金を除く実質的な比較では2.9%の減）、特別会計が24.6%の減、水道事業会計が9.9%の増となりました。

現在、市の財政は、市債の償還や退職手当の増などにより大変厳しい状況にあります。

昨年8月に作成した『中期財政見通し』では、平成19年度から平成22年度までに28億2千万円の累積不足額が見込まれたことから、これを解消するため、財政健全化に向けた取り組みを進めています。

そのため、平成20年度の予算は、大型建設事業を抑制するとともに、経費全般にわたる徹底した節減合理化や市税収納率の向上、遊休不動産の売却、事務事業の見直しなどによる効果を反映しつつ、戸籍の電算化や妊婦健康診査の充実、小学校・図

書館の便所洋式化などの事業に取り組みことにしました。

●一般会計歳入

主な歳入（9ページ表2参照）は、市税が対前年度比3.8%増の56億3千741万円、地方交付税は対前年度比3.4%減の50億7千700万円をそれぞれ見込みました。

市債は、退職手当の増加に対応するための退職手当債4億3千220万円を含む、11億7千500万円を計上しています。

なお、市の貯金に当たる財政調整基金積立金などから3億5千万円、財政調整基金と同じ性格を持つ北海道市町村備荒資金組合超過納付金から2億1千万円を充て、財源不足を補うこととしました。

●一般会計歳出

歳出（9ページ表2参照）は、総務費が行政情報化経費や貸付金の減少などから、前年度比33.6%減の7億3千546万円となりました。

民生費は、医療助成や生活保護の扶助費が減少する見込みであることなどから、対前年度比4.1%減の56億982万円となりました。

土木費は、北海道からの受託事業である道道倶多楽湖公園線（紅葉谷工区）改良受託事業がありますが、幌別東団地建替事業が終了したことや市道改良・舗装事業が減少したこ